内部監査事例集

（入学試験に関する監査）



監　査　室

令和　４年　４月　８日

目　　次

１.「入学試験に関する監査」について
（１）監査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ３

２．事例等の紹介
（１）留意事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ４
（２）注意すべき事例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ５
　　１）受験者への入学試験関係の各種通知実施状況について
（３）部局独自の取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ６
　　１）入学試験に関するインシデント防止に向けた取り組みについて
（４）その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ７

１.「入学試験に関する監査」について

「入学試験に関する監査」は、学内におけるインシデント発生状況を踏まえ「令和２年度内部監査基本計画書」に基づき、令和２年１２月８日から１２月２５日の期間に実施した臨時内部監査です。

監査の概要は以下のとおりです。

（１）監査の概要

入学試験に関するインシデントが発生した場合、受験者はもとより、本学の社会的信用の失墜や各種法人評価への波及等、本学の運営に多大な影響を及ぼすことから、適切に実施する必要があります。

今回の監査では、入学試験に係る業務状況及び入学試験に関するインシデント事案発生部局における再発防止策の実施状況の把握を中心として監査を実施しました。

≪監査項目≫

（1） 入学試験の実施体制に関する書類の閲覧及び質問
（2） 入学試験合否判定資料の作成状況に関する書類の閲覧及び質問
（3） 受験者への入学試験に係る各種通知実施状況に関する書類の閲覧及び質問
（4） 入学試験に関するインシデント（発生のおそれを含む）事案への再発防止の対応状況に関する書類の閲覧及び質問
（5） その他

２．事例等の紹介

（１）留意事項

・以下では、令和２年度に実施した「入学試験に関する監査」において見受けられた事例等を紹介しています。内容については、法令及び学内規程等を参考にして、監査室において判断しています。

・本事例集は、学内の状況を基に作成したものであることから、「取扱注意」及び「学外持出不可」とし、ＷＥＢ上では学内限定とさせていただきます。

・本事例集の内容に関するお問い合わせは、監査室までお願いします。



（２）注意すべき事例

１）受験者への入学試験関係の各種通知実施状況について

受験者への入学試験関係各種通知の封入・封緘作業が単独でなされ、当該通知発出に際し、複数人による確認が行われていなかった。

解　説

受験者への入学試験関係各種通知の封入・封緘作業や通知の発出を担当者単独で行うと、複数人による確認がないことで、各種通知の誤送付等の重大な入試インシデントにつながる危険性を補正する機会を逸することになります。各種通知の封入・封緘作業や通知を発出する際は、複数の担当者で実施し、確認を行う必要があります。

なお、文部科学省から発出されている「令和３年度大学入学者選抜実施要項第１３の３（４）」及び「大学入学者選抜における出題・合否判定ミス等の防止について（通知）」記４においても、「合否判定結果の公表等においては、追加合格者の決定も含め、複数の担当者により二重、三重に点検を行う」ことが要請されています。

また、令和２年９月３０日付「入試ミス等の防止について（依頼）」において、入試業務の実施にあたり「学部編入学試験及び大学院入試ミス防止のためのチェックリスト」の活用を推奨しております。チェックリストでは、複数人による確認やクロスチェックを行うことをチェック項目としておりますので、ぜひともご活用ください。

（３）部局独自の取り組み

部局独自の取り組み事例をご紹介します。

１）入学試験に関するインシデント防止に向けた取り組みについて

教育・学生支援部で各部局に対して活用を推奨している「学部編入学試験及び大学院入試ミス防止のためのチェックリスト」を部局独自に新たなチェック項目を追加する等して活用することにより、入学試験に関するインシデント防止の強化が図られていた。

解　　説

「学部編入学試験及び大学院入試ミス防止のためのチェックリスト」には、担当教員及び事務担当者が適切に入学試験の準備、実施が行えるよう、留意事項や注意点を盛り込んだチェック項目並びに複数担当者によるチェック欄が設けられています。

ある部局においては、本チェックリストの活用に加え、例えば作題委員の問題の修正対応体制や願書、参考論文の取扱い、採点教員と教務係との連携といった部局独自の新たなチェック項目を追加することで、部局の現状に即した確認体制を構築し、インシデント防止の強化を図っていました。

（４）その他

本学では多様な学生の確保を目指し、アドミッションポリシーを定めて入学試験を実施しており、大学院入試と学部入試をあわせると年間 300 件を超える入試が行われています。増加傾向にある入学試験に、限られた人員と時間の中でどう正確に対応していくかが、喫緊の課題となっています。

現在大学院入試の DX 化の検討も進められており、一部大学院入試ではすでにインターネット出願システムの導入が決定しています。新システムの導入や既存システムの改修により、紙媒体での事務手続きが削減され、出願から入学手続きまでの一連の業務が web 化されることで、担当者の業務負担の軽減やヒューマンエラーの防止が期待できるとともに、受験生にとってもより出願しやすい環境となり、大学と受験生、双方にとってプラスになると考えられます。

しかしながら、人の手による業務がなくなるわけではなく、業務を web 化することで電子化した文書の偽造や提出文書と原本の不一致といった新たなリスクの発生なども懸念されるため、入試実施方法の進化に合わせてチェック体制についても検討し続ける必要があると思われます。

【東北大学監査室】
TEL：022-217-5680
E-mail：kansa@grp.tohoku.ac.jp